

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

人に課せられた使命とは何か

1. 徳を高め、大成させる。これを成徳せいとくという。能力を錬磨し、上達させる。これを達材たつざいという。人は何のために学ぶのか。安岡正篤は言っている。

「人は自分を創るために学ぶのだ。そして、人生のあらゆる艱難辛苦かんなんしんくにあっても動じないように、自分を為おさめていく。自分を創るのは利己のためではない。世のため人のために自分を役立てるためである。自分を役立てるには、自己の徳を大成し、自己の才能・能力を錬磨、向上させていかなければならない。それが学の本質である。成徳達材することによって、よりよき運命を創っていくのだ」。

2. 「人生は貴いものが自分の中に存在することを認める必要がある」、と吉田松陰は言っている。「その尊いものに気づき、それを発揮していくことこそ、人としての道だ」ということだ。松陰に先立つ 200 年前、中江藤樹はこんな言葉を残している。「すべての人の心の中に明德といわれる価値のつけられない宝がある。これは性命の宝であり、天下第一の宝である」。明は日と月。太陽と月を併せ持った徳を、すべての人が持って生まれてきている。その宝を大事に輝かせていくところに、人間の値打ちがある、というのだ。
3. 人は皆、天から徳と材を与えられて生まれてくる。その授かった徳と能力を発揮し、それぞれの運命を高めていくことこそ、人としてこの世に生を受けたすべての人に課せられた使命である。

(参考:「致知」2009 年 1 月号)

経営者のための営業学

毎日幹部と電話でやりとりする

1. 食品トレー製造最大手、エフピコ社長の小松安弘は毎日、出社するとすぐに、全国の営業所の幹部社員ら約 20 人に対して、次々と電話をかける。「売り上げ落ちとんのは、現場に足を運んでいないからやないか」。電話口でまくしたてる小松の手元には、前日の夕方に集計された受注データが届いている。
2. 小松はデータのわずかな変化を見逃さず、「価格はどうなっているか」「ライバル企業の動きはどうか」など、気になる点を営業所の状況に合わせて丁寧に聞き出し、指示を出す。相手の話す内容や声色で、日々の状況が分かるという。話す時間は、毎日一人あたり 1 分から 2 分くらい。長くても 5 分程度にすぎない。短い時間だが、「毎日やりとりするからこそ、変化が分かる。だから毎日続けることが重要だ」。小松はこう言う。

(参考:「日経ベンチャー」: 2009 年 1 月号)

海外事情

雇用の維持を重視(米国・キャタピラー社)

1. 米国企業と言えば、短期間での成長を目指して、経営幹部や従業員も高い報酬を求めて転職を繰り返すというイメージが強いかもしれない。だが、キャタピラー社(世界最大の建機メーカー)は、それとは大きく異なる。終身雇用が根つき、社員の多くが退職する年齢は 65 歳。中には 16 歳から働き始めて、80 歳の現役社員もいるという。
2. 親子や親戚がキャタピラーで働くという社員も多い。経営幹部も引退こそすれ、他社に引き抜かれて辞めた例は社員にも記憶がないという。なぜ、そうした経営ができるのか。その理由は、景気変動しても、雇用維持には力を入れている。柔軟な期間雇用や労働時間の短縮などでコアの人材を維持して再び成長を目指す仕組みを持っているからだ。

(参考:「日経ビジネス」2009 年 11 月 17 日号)

古典に学ぶ

安心立命の境涯

「私もまた諸君らと共に、生を教育に求めつつある一人であります。すなわちこの二度とない人生において、自己の魂の道を、教育の世界に求めつつある人間であります。このことを深省する時、私はどうしても、この教育という一道において、真に安心立命のできる境涯に達しなければならぬと思うのです」

(参考:森住三「修身教隠録抄」:致知出版社)